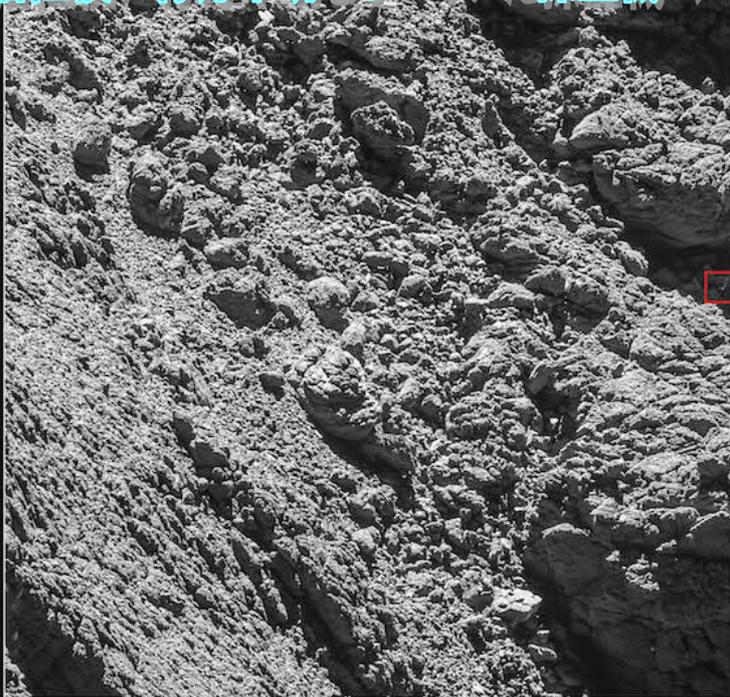


親機「ロゼッタ」のミッション終了まで残り1カ月のタイミングで朗報 彗星着陸後に行方不明となっていた探査機「フィラエ」が2年ぶりに見つかる



① 9月4日にチュリュモフ・ゲラシメンコ彗星の上で発見された着陸機「フィラエ」

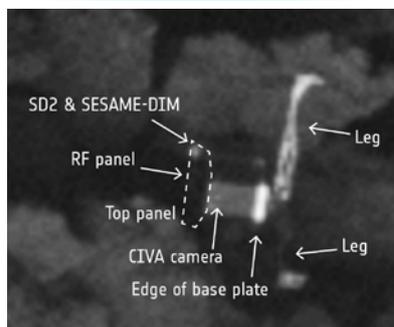
9月30日に「ロゼッタ」も彗星表面に降下して至近距離から観測を行い、彗星内部の構造に迫る

欧州宇宙機関(ESA)は、チュリュモフ・ゲラシメンコ彗星に着陸後に行方不明となっていた小型着陸機「フィラエ」を再び発見したことを明らかにし、親機の彗星探査機「ロゼッタ」が撮影した画像を公開しました。

「フィラエ」は、2014年11月に「ロゼッタ」から切り離され、史上初となる彗星への軟着陸を果たしましたが、弾みで飛ばされてしまいました。その後、陰に入ってしまう太陽光発電ができなくなり、バッテリーを使い果たして通信が途絶。ESAは今年2月に復旧断念を発表していました。

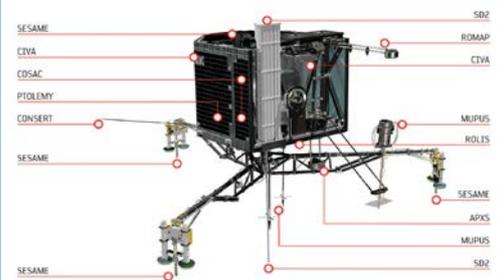
機体の回収は困難なものの、着地点の判明は、これまで届いた観測データの解析に役立つとのことでした。

これが、再発見された「フィラエ」だ！



② フィラエの各部分の注釈入りの画像

9月4日に「ロゼッタ」から届いた画像を解析したところ、彗星の地表の岩の割れ目にはさまっている「フィラエ」の姿を「ロゼッタ」の高精細カメラが捉えていたことが判明。画像では「フィラエ」の箱型の本体が横向きに倒れ、2本の脚が宇宙に浮いている状態であることがはっきりと写っていました。



③ 小型着陸機「フィラエ」(CG)

左の画像と比較すると、「フィラエ」が横倒しになっており、本体の端が明るく映っていることが分かる。

さらに詳しく知りたい方はコチラ

最新情報はツイッターで(英語のみ)



https://twitter.com/ESA_Rosetta